

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600906		
法人名	医療法人社団 康誠会		
事業所名	グループホーム ローズ・ガーデンおおの		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町瀬古232番地		
自己評価作成日	令和7年1月9日	評価結果市町村受理日	令和7年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&jigyosyoCd=2172600906-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和7年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染症の最新情報を把握し、画一的な対応ではなくそれに合わせて柔軟に対応するようにしています。昨年の秋には、買い物や地域のお祭り、公民館の催し物を見に行ったり、ご家族様と相談しご協力を得て自宅に訪問して仏壇やお墓参りをし、居室内でゆっくり面会していただくこともでき、やっとコロナ前の生活に近づくことができました。毎日のミニユニット会議では、入居者様一人一人に合わせて個別ケアや力の発揮が出来るよう、ケア等に関するモニタリングや評価を計画的に行い、ヒヤリハットや事故なども早期に検討しモニタリングを継続することでリスク軽減にもつなげています。困難な事例についても職員の意見を積極的に言える場であり、様々な意見を理念に照らし合わせて話し合い、一緒に悩むことによって解決策を探り、その方に合ったケアへとつなげています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が「その人らしく生き生きと」過ごせる暮らしの支援を提供している。猫の世話、鯉の餌やり、野菜作り、食事や掃除の手伝い、洗濯物量み、13仏掛け軸前でのお参り等が生きがいとなり、楽しみが継続できるようにしている。コロナ禍からの状況に対応し、町の芸術祭や地域の公民館の文化祭に作品を出展し参加する機会があった。ミニユニット会議を毎日開催し、職員一人ひとりが専門職として意見を自由に交わし、事業所や利用者のために積極的に取り組んでいる。職員一人ずつ研修計画を作成し、職員が講師となり介護技術の向上と共に知識を習得できる体制があり、事業所全体でスキルアップする雰囲気になっている。認知症ケアのプロだという意識を常に持った職員が多くいて安心して過ごせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼などで毎日理念を唱える事はしていませんが、ミニユニット会議の中で日々のケアが理念に沿っているか意識しています。特に困難な事例の検討時には理念に返って検討するようにしています。	理念を基に会議で話し合い、年間目標を作成している。職員も個々に自己目標を立てて、意識づけて実践する為に、2ヶ月毎に振り返り管理者が確認し、目標達成を目指している。ケアに行き詰まった際は、理念に立ち返るよう管理者は職員に話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から近所に散歩に出かけ日常的に近隣の方と顔を合わせ挨拶する機会があります。地元高齢者のグランドゴルフの見学やお祭りにも出かけています。	町の芸術祭、地域の文化祭や行事に利用者の作品を出展し参加している。近所の神社へのお詣りや散歩時に、住民と挨拶を交わし会話を楽しんでいる。野菜や果物の差し入れを頂き、顔の見える関係を築いている。職員が小学校の福祉講話に出向いている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月ごとに開催し、利用状況や行事の取り組み、事故や困難事例について詳しく報告し、参加メンバーによる意見をいただいています。同町の管理者が参加して合同でも開催し、会議録は回覧しています。	町の同業施設と合同開催し困難事例やケアについて工夫点や助言をもらっている。ハラスメント、オムツの種類、認知症への対応等について意見をもらい情報交換の場にもしている。議事録は職員に回覧し周知している。事業所単独開催時は家族が参加している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染拡大時や重大事故時の報告に加え、分からないことを聞いたり相談しています。運営推進会議ではホームの状況を詳しく報告したり、困難事例や身体拘束に関する相談をし意見をいただいています。	書類提出はメールが多く法改正等については法人から情報を得ているが、会議案内は手渡して事業所の実情を伝えている。町主催の会議や地域ケア会議等は管理者が参加している。介護相談員を受け入れ、認知症キャラバンメイト等の事業に協力している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年ホーム内で勉強会を行い、やむを得ない場合は慎重に議論を重ね、必要な基準を満たしていることを確認し、医師やご家族様を含めた複数の意見を取り入れています。モニタリングは定期的および必要時に行い身体拘束廃止に向けています。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、毎月委員会を開催している。きつい言葉や行動を制止する言葉等がないか、離床センサー使用時の言葉遣い等も職員で話し合い注意している。運営推進会議でも第三者の意見を求め参考にしている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年の勉強会に加え毎月委員会を開催しています。身近に起こりかねない行為と認識し、スタッフが相談し支え合えるような環境を作っていきたいと考えています。ハラスメントに関しては個人面談を実施しています。	虐待防止のための指針を定め、虐待防止対策委員会を毎月開催している。利用者への普段の話し方等が適切かどうかを研修や会議で振り返りをしている。気になる場面があれば随時、不適切ケアになりそうな背景を、管理者と一緒に考えている。		

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い理解を深めています。ご家族様からの相談があればいつでも相談に応じ、後見制度を活用できるようにしています。後見制度を活用されている入居者様もおられました。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定の際はご家族様それぞれに書面で説明し、必要に応じて職員から説明できるようにしています。質問や相談にはいねいに対応することを心がけて納得や安心につなげています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで面会制限がありご家族様とのコミュニケーションも不足しがちですが来所時には職員から意見を伺い、電話やメモを使って報告しながら要望を聞いています。玄関には意見箱も設置しています。	家族の面会時には伝達内容を記したメモを確認し、家族からの返答もメモ書きで見える化している。どの職員が家族にどのような対応をし、どうだったかを記録し、情報が共有できるようにしている。毎月の新聞は新聞面会やローズ写真館コーナーで写真を多く掲載し、意見をもらいやすくしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体での代表者会議や所属長会議、ホームのリーダー会議でもそれぞれの意見を言う機会を設けています。毎日のミニユニット会議ではスタッフのケアに対する意見を積極的に出し合っています。	フロア毎にミニユニット会議を毎日行い、意見を出し話し合っている。職員の意見から人員体制や業務分担の見直し、介護用品の購入等を実施した。ミニユニット会議を毎日行う事で、職員一人ひとりが意見を持ち、事業所や利用者のために積極的に取り組む姿勢につなげている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	毎年自己目標を立て、スタッフ一人一人が目標に向かっていけるように年2回の面談を行っています。スタッフの家族や身体状況を踏まえ、就業時間の変更など柔軟に対応しています。	職員の体調や家庭事情に合わせ、希望に沿うシフトにしている。資格手当の付与、食費、インフルエンザ予防接種、医療費の補助、ユニホームや靴の支給、誕生日プレゼント、中断していた食事会又は日帰り旅行の予定がある。ストレスチェックし産業医に相談できる体制で働きやすい職場にしている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は年2回の面談でそれぞれが目標達成できる事をホーム全体の目標として掲げました。計画的な外部研修や資格取得も積極的に支援し、毎月の勉強会はそれぞれの職員が講師となり学ぶ機会を設けています。	職員毎にキャリアに応じた研修計画を立て、全員が研修を受けて自己研鑽できるようにしている。外部研修の参加費は法人が負担し、希望又は勸奨にて参加し、受講後は職員に伝達講習している。毎月の勉強会は職員が講師役を担い、全体で知識習得や介護技術向上に努めている。	

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームでは、お互いの運営推進会議に参加したり合同で会議を開催して交流を深め、身体拘束の事例や困難事例検討、感染予防などの相談や情報交換をしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に慣れた家事等をすることで共に生活をする関係を大切にしています。畑作業や調理については1対1でおしゃべりしたり教えていただきながら作業をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えや表情の様子から、ご家族様の情報や意見も聞きながら意向を把握しています。困難な場合は24時間シートやミニユニット会議を活用し、時間がかかってもあきらめずに意向をつかむように努めています。	その人に合わせた聞き方で筆談やホワイトボードを使ったり、居室や事務所で思いや意見を聞いている。困難な人には表情や行動から把握したり家族に聞いたりしている。本人が発した言葉や行動は24時間シートに記録し、会議で話し合う時もある。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は変更部分や重点部分にマーカーを入れて説明し、ご本人ご家族様の介護に対する要望や意向を取り入れています。評価は定期的に行い、細かな変更や修正をしています。	わかること、できることシートを作成し、利用者の強みを活かしたアセスメントを行っている。本人や家族の意向を確認し、医師や看護師の意見も入れて介護計画を作成している。ミニユニット会議で1～3ヶ月毎に見直し、細かな変化も随時見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの課題やニーズごとに記録者の考えが伝わりやすいように、ご本人の言葉や観察した様子、それについてどう考えこれからどうするのかを記録するようにしています。また、ホーム日誌でも情報を共有しています。	介護記録、24時間シート、家族へのメモ、日課表、ホーム日誌等に記載した内容をミニユニット会議で共有し、会議に出ない職員は閲覧しサインして情報を共有している。変更点等は文字の色分けや蛍光ペンで記し、分かりやすくしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化によって望まれることも変化していくため、パソコンの設置や洗濯物の取り扱い、他院の受診、面会、外出支援など個別に必要な対応をしていくようにしています。	多様化する家族に配慮し介護タクシーの手配、クリーニング業者の集配配達利用等で他のサービス利用も勧めている。家族に代わり買い物の代行、自宅の仏壇や墓参りの一時帰宅、自宅周辺へのドライブ等で個別の外出支援をしている。	

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的な散歩や地域のお祭りや公民館まわりの参加、地域の高齢者のグランドゴルフを見に行き関係を継続しています。地元の小学生や中学生との関わりも再開していこうと思っています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院、歯科、精神科のかかりつけ医などの受診が継続できるようにしています。普段の様子や変化などは看護師が手紙を書いてスムーズな受診につなげています。	入居時に全員が家族の意向で協力医に変更している。精神科等の専門医を家族が同行し受診時は、受診連絡表に普段の様子を記し、受診後に報告内容をメモで残し、職員が共有できるようにしている。協力医とは24時間連絡体制ができています。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院時にはMSWと連携し様子を見に行ったり病棟看護師からの情報を得てスムーズに退院後の生活が出来るようにしています。また、環境の変化による弊害を少しでも減らせるように早期に退院できるように働きかけています。	入院時、日頃の様子をサマリで渡している。家族や病院の相談員に事業所に戻る状態を伝え、治療が終了し、経口摂取できる状態であれば、早期に戻ってもらう方針にしている。摂取状況等を確認し退院となればカンファレンスに参加しサマリをもらっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りの指針を説明し、必要に応じてご家族様や医師、看護師と繰り返し話し合いを設けています。介護計画にも終末期のケアについて記載し説明と同意をいただき、職員皆で共有し支援しています。	状態に合わせて看護師が家族に、今後の意向や思いを確認している。医師から家族に説明してもらい、会議で情報を共有している。栄養剤の補給、嚥まなくて良い介護食や好きな食べ物で対応している。看取り後は初七日カンファレンスで振り返りを行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が定期的に勉強会を開き対応方法を実施したり緊急時に備えてマニュアルを整備しています。体調不良などの情報はホーム日誌で共有し、急変に対応しています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震と火災を想定した避難訓練に加え、全員が夜間の初期消火や消防署へ通報できるように抜き打ちで訓練を行っています。BCPを策定し水害に対する避難訓練も実施していこうと思っています。	2ヶ月毎に夜間想定を含めた避難訓練を行い、いざという時を想定し抜き打ちでの訓練も行い、チェックリストで避難方法を確認している。水、米や缶詰等を備蓄している。地域とは20年来的付き合いがあり、何かあれば応援してもらえる関係性が出来ている。	水害について、具体的な対策の必要性をとらえており、今後具体的な水害対策の実施を期待したい。

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に訴えを否定せず受容するようにしています。特に排泄介助はさりげなく支援するようにし職員同士の会話時にも気を付けています。また、プライバシーの保護に対しての勉強会を行っています。	排泄時の誘導は大声にせず、職員がトイレに入る時間も最小限になるよう、合図の鈴を鳴らせてもらい羞恥心にも配慮している。居室ドアの内側に暖簾をかけ、廊下から居室内が見えないようにしている。人権擁護、プライバシーや個人情報保護の研修を実施している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う時は、ご本人の意思を確認し、何事も無理強いしないようにしています。言動の背景を考え、ご本人の本当の気持ちを汲み取るため、時にはご家族様の助言もいただいています。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様ひとりひとりの思いや価値観、こだわりなどを理解し、それぞれのペースに合わせて入浴の日やタイミング、食事、起床・就寝時間など画一的にしないようにしています。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や料理を心がけ、買い物や調理・片付けなど力の発揮の場を設け、食事のにおいや音など五感での刺激につなげています。食事の量や形態、特別な食事の（あいと）を提供したり食器も個別に合わせています。	栄養士が献立を立て、畑やプランターで育てた野菜を料理に取り入れている。ひな祭りにちらし寿司、鰻の日に鰻等の行事食や誕生日には希望のものを提供している。野菜の下拵え、盛り付け、食器洗いや食器拭き、落や柿の皮むき等を一緒に行っている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と共に個々に合わせた食事形態の工夫や量、調理の仕方に気を付けています。ご希望に合わせて補助食品の提供や水分摂取が少ない方には食器の工夫や好きな飲み物を提供しています。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせて見守りや歯間ブラシ、仕上げ磨き、義歯の洗浄をしています。毎月歯科衛生士の指導や助言を受け、口腔ケアのスキルアップをし、必要時は歯科受診や往診が受けられる体制を整えています。	毎食前に口腔体操を実施し、毎食後に口腔ケアを促し、介助している。月1回歯科医と歯科衛生士から助言や指導を得て、その人に合わせたケアを支援している。義歯は個々に見守り、仕上げ介助、洗浄介助し、希望で夜間預かりにしている。		

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を24時間行うことでその方のパターンを知り、タイミングを見計らってトイレでの排泄へとつなげています。また、さりげない声かけや誘導、呼び鈴の設置など安全に失敗しない環境作りをしご本人の力を生かすようにしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日はあらかじめ決めておきますが、ご本人の希望を聞きながら入浴日やタイミング、回数を変更しています。また、身体状況や体調に合わせて入浴方法、清潔保持の方法を変えています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体力や身体状況に合わせて日中の休息の時間を設け、無理のないように過ごしています。昼間の活動を多くし、安心を重視して夜はよく眠れるようにし、むやみに薬に頼らないようにしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師に情報提供し、分包の仕方や薬の形状など相談しています。薬情報は写真入りで効果や副作用、用法用量がすぐに分かるようにしています。服用しやすいようにその方に合わせた介助をしています。	処方薬の変更、薬の副作用等の注意点をホーム日誌に記載し、ミニユニット会議で周知情報を共有している。二人の職員でセットし服薬時に本人の目前で名前、日付、時間を確認している。飲みづらい人は医師に相談し、散剤への変更やゼリーを使用している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みや過ごし方の意向を把握し、感染対策をしながらその方にあった生活ができるように環境を整えています。日記や編み物、畑作業や園芸、好きなおやつやコーヒーを飲むなどし、時にはバラ公園やお祭りに出かけています。	わかること、できることシートの情報を参考に、継続し楽しみとなるように支援している。編み物、猫の世話、鯉の餌やり、野菜作り、食事や掃除の手伝い、洗濯物や手拭きタオル畳み、先代猫へのお参り等を役割としてやってもらっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節に合わせて日常的に庭や畑、近所への散歩、神社に出かけています。外出が困難な方は中庭やベランダに出ています。ご家族様との外出や自宅へは感染対策をしながら継続しています。	中庭を通り神社までの散歩コースを個別で支援している。バラ公園、町の芸術祭や地域の文化祭に出掛けている。家族の協力を得て外出や外泊する人もいます。洗濯物干しや取り込み、野菜の水やり、中庭でお茶を飲む等外気に触れる機会をつくっている。	

グループホーム ローズ・ガーデンおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方にはご家族様と相談の上、ご自身でお財布を持っています。金額は一緒に確認してご家族様に毎月収支報告していますが、強い拒否があって確認できないことも報告しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中お見舞いや年賀状、お礼状などはご本人が書けるようにし、希望時には電話や手紙のやり取りが出来るように支援しています。携帯電話も使用できるようにしています。うまくできない方にはご家族様と相談して対応しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの大きな窓からは木や池が見え季節を感じられ、誰もが分かるようにカレンダーや時計を配置しています。フロアを整頓して混乱を避け、必要に応じてトイレや居室に目印を取り付けています。テレビだけではなく好きな音楽をかけています。	リビングに季節の壁画、季語の書道作品やひな人形を飾っている。TV、懐かしい画像、好きな音楽や動画を流したり、雑誌や新聞を読んだり自由に過ごしている。大きな窓から庭が良く見え季節の花や木々で季節が感じられる。常時換気とサーキュレーター使用し日に5回消毒している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼間はカーテンを開け、窓際には外が見えるようにソファを置き、気が向いたときに一人で編み物や新聞を読んだり、気の合う方とおしゃべりできるようにしています。フロアの席は関係性に配慮しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の契約時に、家具や大切にしていたもの、趣味の道具などを持って来ていただくように説明しています。居室内が安心してくつろげる場所になるように心がけ、時には衣類を預かることもあります。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはすっきりと片付け、移動や認識がしやすいようにしています。手すりや呼び鈴の設置、滑り止めのお盆の使用など工夫し一人でも動作がしやすいようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600906		
法人名	医療法人社団 康誠会		
事業所名	グループホーム ローズ・ガーデンおおの		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町瀬古232番地		
自己評価作成日	令和7年1月9日	評価結果市町村受理日	令和7年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2172600906-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人となつた会の会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和7年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼などで毎日理念を唱える事はしていませんが、ミニユニット会議の中で日々のケアが理念に沿っているか意識しています。特に困難な事例の検討時には理念に返って検討するようにしています。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から近所に散歩に出かけ日常的に近隣の方と顔を合わせ挨拶する機会があります。地元高齢者のグランドゴルフの見学やお祭りにも出かけています。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月ごとに開催し、利用状況や行事の取り組み、事故や困難事例について詳しく報告し、参加メンバーによる意見をいただいています。同町の管理者が参加して合同でも開催し、会議録は回覧しています。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染拡大時や重大事故時の報告に加え、分からないことを聞いたり相談しています。運営推進会議ではホームの状況を詳しく報告したり、困難事例や身体拘束に関する相談をし意見をいただいています。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年ホーム内で勉強会を行い、やむを得ない場合は慎重に議論を重ね、必要な基準を満たしていることを確認し、医師やご家族様を含めた複数の意見を取り入れています。モニタリングは定期的および必要時に行い身体拘束廃止に向けています。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年の勉強会に加え毎月委員会を開催しています。身近に起こりかねない行為と認識し、スタッフが相談し支え合えるような環境を作っていきたいと考えています。ハラスメントに関しては個人面談を実施しています。			

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い理解を深めています。ご家族様からの相談があればいつでも相談に応じ、後見制度を活用できるようにしています。後見制度を活用されている入居者様もおられました。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定の際はご家族様それぞれに書面で説明し、必要に応じて職員から説明できるようにしています。質問や相談にはていねいに対応することを心がけて納得や安心につなげています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで面会制限がありご家族様とのコミュニケーションも不足しがちですが来所時には職員から意見を伺い、電話やメモを使って報告しながら要望を聞いています。玄関には意見箱も設置しています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体での代表者会議や所属長会議、ホームのリーダー会議でもそれぞれの意見を言う機会を設けています。毎日のミニユニット会議ではスタッフのケアに対する意見を積極的に出し合っています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	毎年自己目標を立て、スタッフ一人一人が目標に向かっていけるように年2回の面談を行っています。スタッフの家族や身体状況を踏まえ、就業時間の変更など柔軟に対応しています。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は年2回の面談でそれぞれが目標達成できる事をホーム全体の目標として掲げました。計画的な外部研修や資格取得も積極的に支援し、毎月の勉強会はそれぞれの職員が講師となり学ぶ機会を設けています。		

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームでは、お互いの運営推進会議に参加したり合同で会議を開催して交流を深め、身体拘束の事例や困難事例検討、感染予防などの相談や情報交換をしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に慣れた家事等をすることで共に生活をする関係を大切にしています。畑作業や調理については1対1でおしゃべりしたり教えていただきながら作業をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えや表情様子から、ご家族様の情報や意見も聞きながら意向を把握しています。困難な場合は24時間シートやミニユニット会議を活用し、時間がかかってもあきらめずに意向をつかむように努めています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は変更部分や重点部分にマーカーを入れて説明し、ご本人ご家族様の介護に対する要望や意向を取り入れています。評価は定期的に行い、細かな変更や修正をしています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの課題やニーズごとに記録者の考えが伝わりやすいように、ご本人の言葉や観察した様子、それについてどう考えこれからどうするのかを記録するようにしています。また、ホーム日誌でも情報を共有しています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化によって望まれることも変化していくため、パソコンの設置や洗濯物の取り扱い、他院の受診、面会、外出支援など個別に必要な対応をしていくようにしています。		

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的な散歩や地域のお祭りや公民館まわりの参加、地域の高齢者のグランドゴルフを見に行き関係を継続しています。地元の小学生や中学生との関わりも再開していこうと思っています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院、歯科、精神科のかかりつけ医などの受診が継続できるようにしています。普段の様子や変化などは看護師が手紙を書いてスムーズな受診につなげています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院時にはMSWと連携し様子を見に行ったり病棟看護師からの情報を得てスムーズに退院後の生活が出来るようにしています。また、環境の変化による弊害を少しでも減らせるように早期に退院できるように働きかけています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りの指針を説明し、必要に応じてご家族様や医師、看護師と繰り返し話し合いを設けています。介護計画にも終末期のケアについて記載し説明と同意をいただき、職員皆で共有し支援しています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が定期的に勉強会を開き対応方法を実施したり緊急時に備えてマニュアルを整備しています。体調不良などの情報はホーム日誌で共有し、急変に対応しています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震と火災を想定した避難訓練に加え、全員が夜間の初期消火や消防署へ通報できるように抜き打ちで訓練を行っています。BCPを策定し水害に対する避難訓練も実施していこうと思っています。		

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に訴えを否定せず受容するようにしています。特に排泄介助はさりげなく支援するようにし職員同士の会話時にも気を付けています。また、プライバシーの保護に対しての勉強会を行っています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う時は、ご本人の意思を確認し、何事も無理強いしないようにしています。言動の背景を考え、ご本人の本当の気持ちを汲み取るため、時にはご家族様の助言もいただいています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様ひとりひとりの思いや価値観、こだわりなどを理解し、それぞれのペースに合わせて入浴の日やタイミング、食事、起床・就寝時間など画一的にしないようにしています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や料理を心がけ、買い物や調理・片付けなど力の発揮の場を設け、食事のにおいや音など五感での刺激につなげています。食事の量や形態、特別な食事の（あいと）を提供したり食器も個別に合わせています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と共に個々に合わせた食事形態の工夫や量、調理の仕方に気を付けています。ご希望に合わせて補助食品の提供や水分摂取が少ない方には食器の工夫や好きな飲み物を提供しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせて見守りや歯間ブラシ、仕上げ磨き、義歯の洗浄をしています。毎月歯科衛生士の指導や助言を受け、口腔ケアのスキルアップをし、必要時は歯科受診や往診が受けられる体制を整えています。		

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を24時間行うことでその方のパターンを知り、タイミングを見計らってトイレでの排泄へとつなげています。また、さりげない声かけや誘導、呼び鈴の設置など安全に失敗しない環境作りをしご本人の力を生かすようにしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日はあらかじめ決めておきますが、ご本人の希望を聞きながら入浴日やタイミング、回数を変更しています。また、身体状況や体調に合わせて入浴方法、清潔保持の方法を変えています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体力や身体状況に合わせて日中の休息の時間を設け、無理のないように過ごしています。昼間の活動を多くし、安心を重視して夜はよく眠れるようにし、むやみに薬に頼らないようにしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師に情報提供し、分包の仕方や薬の形状など相談しています。薬情報は写真入りで効果や副作用、用法用量がすぐに分かるようにしています。服用しやすいようにその方に合わせた介助をしています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みや過ごし方の意向を把握し、感染対策をしながらその方にあった生活ができるように環境を整えています。日記や編み物、畑作業や園芸、好きなおやつやコーヒーを飲むなどし、時にはバラ公園やお祭りに出かけています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節に合わせて日常的に庭や畑、近所への散歩、神社に出かけています。外出が困難な方は中庭やベランダに出ています。ご家族様との外出や自宅へは感染対策をしながら継続しています。		

グループホーム ローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方にはご家族様と相談の上、ご自身でお財布を持っています。金額は一緒に確認してご家族様に毎月収支報告していますが、強い拒否があって確認できないことも報告しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中お見舞いや年賀状、お礼状などはご本人が書けるようにし、希望時には電話や手紙のやり取りが出来るように支援しています。携帯電話も使用できるようにしています。うまくできない方にはご家族様と相談して対応しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの大きな窓からは木や池が見え季節を感じられ、誰もが分かるようにカレンダーや時計を配置しています。フロアを整頓して混乱を避け、必要に応じてトイレや居室に目印を取り付けています。テレビだけではなく好きな音楽をかけています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼間はカーテンを開け、窓際には外が見えるようにソファを置き、気が向いたときに一人で編み物や新聞を読んだり、気の合う方とおしゃべりできるようにしています。フロアの席は関係性に配慮しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の契約時に、家具や大切にしていたもの、趣味の道具などを持って来ていただくように説明しています。居室内が安心してくつろげる場所になるように心がけ、時には衣類を預かることもあります。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはすっきりと片付け、移動や認識がしやすいようにしています。手すりや呼び鈴の設置、滑り止めのお盆の使用など工夫し一人でも動作がしやすいようにしています。		